

2023.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%) = (実現損益 + 未収収益増減 + 評価損益増減) / (元本平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益) × 100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2023年度第1四半期運用状況

4月の株式市場は、米経済指標改善による景気先行き懸念の後退などから内外株式は上昇しました。5月は、地銀の経営破綻連鎖懸念による金融環境の引締め等を背景に景気悪化が懸念された米国や欧州各国は下落しましたが、国内株式は、景気の底堅さなどを背景とした海外投資家の断続的な買いから日経平均株価は3万1000円台を回復、1990年3月来33年ぶりの高値をつけました。6月は、米債務上限問題の解決やFOMCでの利上げ見送り観測の高まりなどから米国株は上昇、国内株式も、日銀の金融緩和維持を背景に海外勢の断続的な買いで続伸し、日経平均株価はバブル経済崩壊後の高値を更新する3万3000円台まで上昇しました。

一方、債券市場は、国内10年国債利回りは、日銀が金融緩和策を維持し0.40%を挟んだレンジで推移しました。米国10年国債利回りは、金融引締めの長期化観測などを背景に3.47%から3.84%へ上昇（債券価格は下落）、ECBが利上げを継続したことを受け、欧州各国の利回りも上昇しました。

なお、この間、為替市場では、金融政策の方向性の違いが意識され、1ドル＝133.09円から144.54円に、1ユーロ＝144.59円から157.69円へ大幅な円安が進み、プラス寄与となりました。

このように、4～6月は内外株式の上昇に加えて大幅な円安が進行した中、当基金の第1四半期におけるパッシブ資産の収益率は5.62%、オルタナティブ資産は2.25%、一般勘定を含めた資産全体の収益率は4.85%となりました。

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	-1.43	4.85				4.85
収益額(千円)	-60,728	222,068				222,068
期末運用資産額(千円)	4,367,361	4,950,336				4,950,336

(注) 収益率は修正総合利回り。

1. 2023年度 第1四半期運用環境

【市場の動き（4月～6月）】

国内債券：4月の10年国債利回りは、月初は新発10年国債入札が低調な結果となったことを受け急上昇（債券価格は下落）し、その後月内は概ね0.45%～0.48%のレンジ内で推移しましたが、月末は日銀金融政策決定会合で現行の金融政策の維持を決定したことで0.39%に低下（債券価格は上昇）しました。5月は、月中を通して、当面金融政策に変更がないとの見方から0.40%を挟んだ狭いレンジで推移し、月末は米国債利回りに連れて0.43%に上昇しました。6月は、月前半は、日銀金融政策決定会合を控えて様子見ムードの中、利回りは横ばいで推移し、月後半は、日銀金融政策決定会合で金融緩和策が維持されたことを受けて低下し、月末は0.40%で終わりました。

国内株式：4月は、上旬は米経済指標の悪化から下落しましたが、その後、米雇用統計から米景気悪化への過度な警戒感が和らぎ上昇し、中旬以降も米利上げ長期化観測後退などで上昇しました。5月は、国内株の割安度に注目した海外投資家の断続的な買いや、堅調な国内企業決算、国内企業の積極的な自社株買い等で続伸し、日経平均株価は3万1000円台を回復、1990年3月来33年ぶりの高値となりました。6月も、景気の底堅さや日銀の金融緩和と政策の維持を背景に海外投資家の買いが継続し、日経平均株価はバブル経済崩壊後の高値を更新し3万3000円台まで上昇しました。

外国債券：米国10年国債利回りは、4月は、底堅い雇用関連指標や米国株式の反発、FRB高官のタカ派発言などを受け一時3.63%まで上昇しましたが、その後、景況感指標の悪化などを背景に低下しました。5月は、狭いレンジ内で推移した後、月後半は、米経済指標の改善が続いたほか、FRBが利上げ停止に対し慎重な姿勢を示唆したことから年後半の利下げ観測が後退し3.65%に上昇しました。6月は、FOMCでは追加利上げが見送られた一方、参加者の政策見直しが引き上げられ、市場では利上げが長期化すると観測から売り圧力と買い圧力が交錯する中、狭いレンジで上下する展開となりましたが、月末にかけては経済指標の改善を背景に売りが優勢となり月末は3.84%に上昇しました。なお、為替は金融政策の方向性の違いが意識され、ドル/円では1ドル133.09円から144.54円に、ユーロ/円では1ユーロ144.59円から157.69円へ大幅な円安が進み、プラス寄与となりました。

外国株式：米国株式は、4月は、米経済指標がインフレ鈍化を示すと、利上げの打止め期待からNYダウは3万4000ドル台まで上昇しましたが、5月は、金融引き締め長期化懸念、米地銀株の急落や米銀の貸出態度厳格化、債務上限問題を巡る不透明感などを背景に下落しました。6月は、債務上限問題が解決したほか、市場予想を上回る経済指標の発表が相次いだことで市場心理が改善し、NYダウは3万4000ドル台に回復しました。

◇参考指標

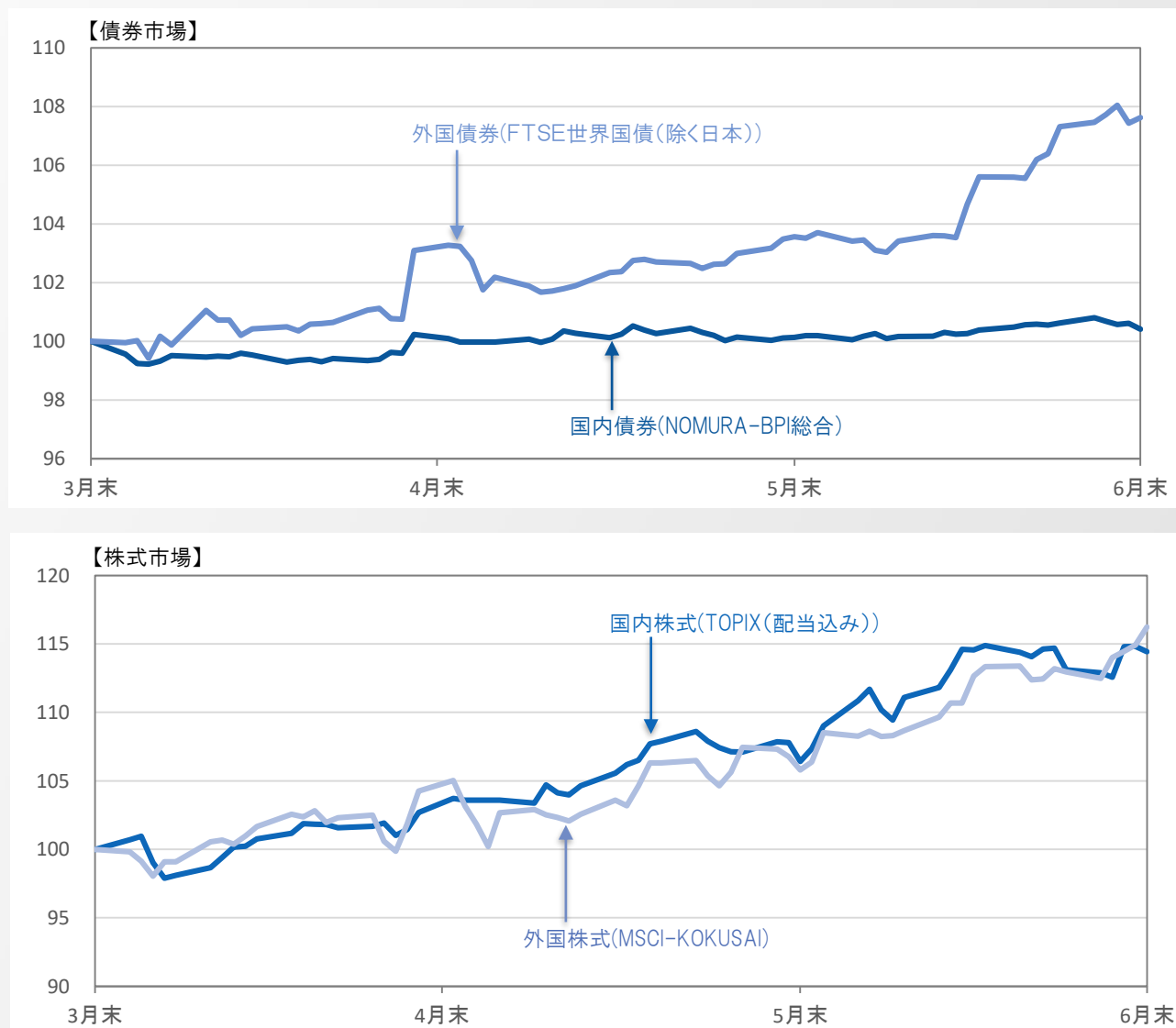
		2023年3月末	2023年4月末	2023年5月末	2023年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.32	0.39	0.43	0.40
国内株式	日経平均株価 (円)	28,041.48	28,856.44	30,887.88	33,189.04
外国債券	米国10年国債利回り (%)	3.47	3.43	3.65	3.84
	ドイツ10年国債利回り (%)	2.29	2.31	2.28	2.39
外国株式	NYダウ (ドル)	33,274.15	34,098.16	32,908.27	34,407.60
	ドイツDAX (ポイント)	15,628.84	15,922.38	15,664.02	16,147.90
為替	ドル/円 (円)	133.09	136.17	139.71	144.54
	ユーロ/円 (円)	144.59	150.33	148.94	157.69

◇ベンチマーク収益率

	2023年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI総合	0.41 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	14.45 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	7.62 % (-2.11 %)
外国株式 MSCI-KOKUSAI	16.25 %

(注)FTSE世界国債の下段 () 内は、円ヘッジベースの収益率

市場ベンチマークの推移(2023年度 第1四半期) 2023年3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	-1.43	5.62				5.62
国内債券	-1.10	0.44				0.44
国内株式	10.03	14.57				14.57
外国債券	0.93	7.76				7.76
ヘッジ外債	-7.36	-1.93				-1.93
外国株式	5.85	16.57				16.57
短期資産	-0.01	0.00				0.00

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	-49,132	212,792				212,792
国内債券	-1,739	828				828
国内株式	27,406	70,725				70,725
外国債券	2,196	32,152				32,152
ヘッジ外債	-113,860	-33,222				-33,222
外国株式	36,941	142,308				142,308
短期資産	-75	0				0

(2) オルタナティブ資産

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	-3.56	2.25				2.25
第一生命	-3.34	1.35				1.35
りそな銀行	-3.78	3.16				3.16

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	-14,396	8,776				8,776
第一生命	-6,759	2,639				2,639
りそな銀行	-7,636	6,137				6,137

(参考) 第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

(3) 一般勘定

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	0.70	0.12				0.12

	2022年度	2023年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	2,800	500				500

(参考) 日本生命：ニッセイ一般勘定プラス

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖 離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	199,228	4.8%	5%	±2%	-0.2
国内株式	571,286	13.8%	13%	±3%	+0.8
外国債券	461,399	11.1%	11%	±3%	+0.1
ヘッジ外債	1,763,741	42.5%	45%	±4%	-2.5
外国株式	1,032,120	24.9%	23%	±4%	+1.9
短期資産	121,377	2.9%	3%	±3%	-0.1
合 計	4,149,151	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(2) オルタナティブ資産

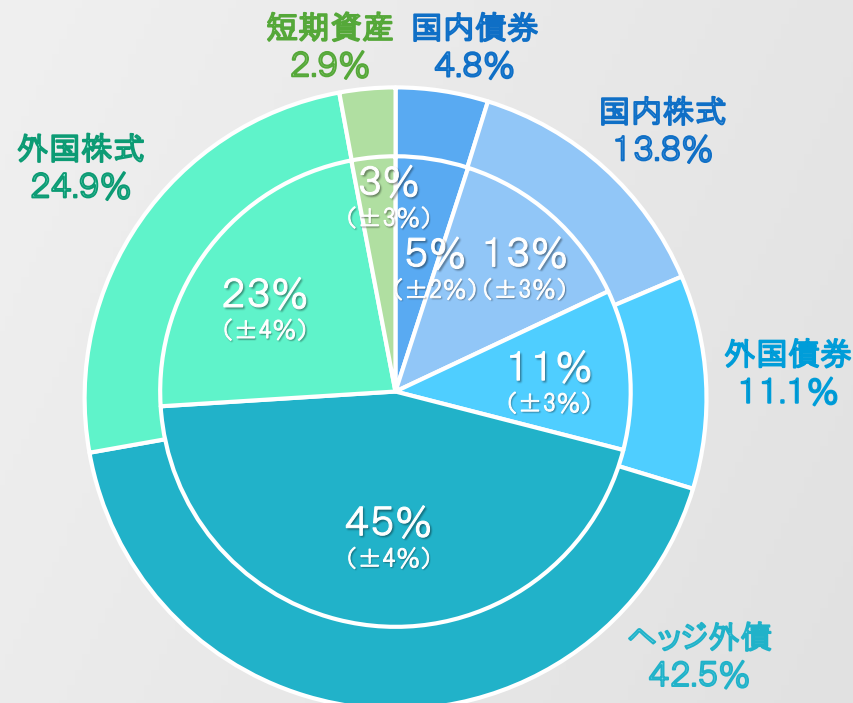
	資産額(千円)
第一生命	198,183
りそな銀行	200,508
合 計	398,691

(3) 一般勘定

	資産額(千円)
日本生命	402,493

(4) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	4,149,151
オルタナティブ資産	398,691
一般勘定	402,493
合 計	4,950,336



内側: 基本ポートフォリオ (カッコ内は許容乖離幅)
外側: 2023年6月30日時点